

可愛い赤ちゃんなぜ泣かせるの？

希望と感動をもって生まれてくる赤ちゃんの中に、運動発達が十分でないままにこの世に生を受ける児があることを目のあたりにしました。それから乳幼児と私の戦いが始まりしました。ご両親には「百歳まで自らが歩くために一年の努力をしましょう。」

乳幼児の運動発達上（知覚。感覚）どの段階にあるのかを七つのポイントにそってチェックをします。

- 1 手が口に届いて指（親指）しゃぶりをすること。
- 2 手と手が合い、手遊びができること
- 3 首と体幹がしっかりしてだっこしやすいこと。
- 4 手で足をもって遊び、足と足で遊べること。
- 5 ねがえり、仰向けから俯けになれること。
- 6 おすわり、床から起き上がって座れること。（円股座りが望ましい。）
- 7 腹這いから四つ這いができること。

これらのポイントが正常パターンで行われているかをチェックします。この 7 つのポイントをクリアすれば独り歩きまでおおむね順調にいきます。

立つことが遅い場合、ややもすると歩行器や親が手で支えたりしてしまいます。これは、運動発達上有益ではないのです。乳幼児自身が立ち上がっていくことが大切です。「這わさずに 立たせてしまう 親心」は望ましくありません。

では、治療（訓練）について簡単に説明いたします。乳幼児が運動発達を習熟していくために、次の二点を私は黒子になって力を注ぎます。

- 1 関節が軟らかくあらゆる方向に動かせるように準備をします。（例えば相撲でいう股割り、乳幼児が両股開排位姿勢を平気でとれるようにする。）
- 2 筋肉の力が地球の引力に逆らって乳幼児が床から立ち上がっていくために全身の筋肉をくまなくつけていきます。（例えば腕を伸ばして体を支えた形のまま脚はお腹へ引き込む力をつけます。）

次に乳幼児に筋力を付けるための方法を紹介します。その方法とは乳幼児に刺激を与え怒らせてもがかせ、その力に抵抗をかけて筋力を付けていきます。その抵抗をかける場所には青血ができます。それは、筋力ができた勲章です。

このように治療していく中で、母親に赤ちゃんの動きの効果や育児の改善具合をノートに記録してもらい治療の指針として役たてます。治療を繰り返し行い、独り歩きというすばらしい免許を赤ちゃんが獲得した段階で、母親にレポートを書いていただきます。

レポートを書いていただく目的は次の通りです。

- 1 赤ちゃんが大きくなったとき親子共々に頑張ったことを告げる人生の一頁としての記録
- 2 レポートをこれからリハビリを受ける家族への励みとして活用させていただく。（必ず了解を得ています。）